

10月8日(木曜日)「求められる決断」

【新改訳 2017】

ルカ 9.57-62

「……ある人がイエスに言った。『私はあなたのおいでになる所なら、どこにでもついて行きます。』すると、イエスは彼に言われた。『狐には穴があり、空の鳥には巣があるが、人の子には枕する所もありません。』」(57、58 節)

人生は選択と決断の連続である、とされています。信仰生活もまさにその通りです。そして、その選択と決断は、そのまま、その人の生き方を決めることとなります。

主イエスは、ここで、三人の例を挙げて教えられましたが、いずれも「キリストを信じて生きる」という人生の選択と決断の重大さを述べているものです。それは、安易なものではないこと、優柔不断ではできないこと、神の国を第一に優先しなければならないことなどを意味しています。

主の結びのことば―「だれでも、手を鋤につけてから、うしろを見る者は、神の国にふさわしくはありません」(62 節)―は、真実な決断の必要を教えておられるものです。どうかこのよ

うな決断ができますように。

～祈り～

主よ。御国の福音に生きるものとしてふさわしい、真実な決断をもって、あなたに従い続けることができるように導いてください。

【学びのために】

10月3日の日課も参照。